

教育実習が終わりました

校長 南部 正 人

平素から附属旭川小学校の教育活動に御理解，御協力をいただき誠にありがとうございます。

さて，教育実習が9月17日に終了しました。御存知のとおり，附属旭川小学校は，教育実習を受け入れることが，その設置する目的の一つとなっている学校です。今年度も，先生方や児童の皆さんに御協力をお願いしていたところです。

コロナ禍の中で，外部から実習生を受け入れることは感染予防の観点から，厳重な注意が必要です。実習生は実習開始前から，大学が定めたルールに沿って感染予防対策を行いました。また，実習中も，学校外での行動規制を行いました。こうした制約を守れる学生は，実習することを許可されました。

実習生は大学に入学以来，教員養成カリキュラムを中心に，多くの授業を受けながら教員としての知識や実践力を身に付けようと学んできました。しかし，数週間にわたり，児童と毎日接する機会は，この実習が初めてです。ですから，これまでの学びを基に自らの教員としての適性を確認する貴重な機会となったとともに，教員に必要なことは何か，経験的に気付く機会となりました。

小学校で授業を行うための知識と実践力の獲得は，大変な努力が必要です。私自身は，よく次のようなことを言われます。

「大学の授業を行うのは大変でしょうね。たくさんの知識だけではなく，大人数の，教員志望者の意識を高めるための努力は大変ですね。」

確かにそのとおりですが，学生の学びも，小学校以来，培ってきた学びに対する姿勢の上に成り立ちます。ですから，小学校での学ぶ姿勢の獲得がどれほど重要かを日々の大学の授業の中で痛感しているところです。

小学校の授業は一見すると，内容的に平易に感じます。しかし，基礎的な学びの姿勢を定着させることほど難しいものではなく，よく使われる「小学生でも分かる」の常套句の背景には，基本的な学ぶ姿勢を定着させた先生方の努力があります。実習生も，こうした困難さを，自ら教壇に立って身をもって味わい，教育実習を終えました。この後，大学に戻り，経験してきた実習を振り返り，更なる知識と実践力の獲得を目指します。御協力ありがとうございました。